新中核的農業担い手支援事業（農業チャレンジ事業）

■お問い合わせ
農林課
☎4－2511内線144
☆4－2511109

農業チャレンジ事業は、平成22年度から開始しており、下川町の次世代を担う農業者の「新しいチャレンジ」を支援する事業です。これまで13件の新しいチャレンジが実践されております。令和３年度は、及川泰介さんの「高設栽培によるシロバナヘビイチゴの栽培検証」と遠藤大世さんの「半養液生産基盤の持続可能性の向上へ～２年目のジンクス解消～」に挑戦しました。

「高設栽培によるシロバナヘビイチゴの栽培検証」

■事業目的及びその概要

シロバナヘビイチゴをビニールハウスにて高設栽培を行う。露地栽培より多収量が見込め、衛生管理も同時に行えることから、高品質の作物を生産できます。

高級スイーツ店やホテルなどからの引き合いがあり、商業ベースの生産となれば国内初であり、フルーツトマト栽培のノウハウと資材を使い、高精度での栽培、生産、出荷を行います。

■補助金交付申請額

１，４２１，７８９円
補助額９４７，０００円

■補助事業等実施による効果

①既存のイチゴ市場の枠に入らないため、安定生産することで競合のない環境の中で１００坪ハウス１棟のみで、１００万円の売り上げが見込めます。

②フルーツトマトと同様に半養液栽培とするため、柔軟な複合栽培体制ができます。

③希少な品種を栽培することで、可能な限り市場の影響を受けない生産物を販売し、農業経営の安定化を進めることができます。

「半養液生産基盤の持続可能性の向上へ～2年目のジンクス解消～」

■現　状

半養液フルーツトマトのいちご培土は、経年により固く根張り、年々収量は減少しています。

対策として、使用済みの土を手もみしてゴミや根を取る作業を試みる農業者もいますが、作付面積の拡大等から持続できる作業ではなく、いちご培土の価格も上昇傾向にあり、過去５年２倍近く、経営に与える影響も大きいものです。

■解決すべき課題

・固く根張りする土
・労働時間の増加
・定植時期の遅延

■必要となる対策

・収量を確保しつつ、土の導入費用を軽減します。
・土づくりの作業時間を減少させ、定植作業へ転換します。

■解決方法

・土ふるい機を導入し、固い土をほぐし、根を取り除くことで、根張りの促進と通気性の向上から収量の安定化を見込める。ふるいにかけた土は、消毒器につけ置きし、病害虫の防除へ繋げる。

■導入機具

土ふるい機KT-Ⅲ（ビート用・粉砕力と攪拌機能による効率化）
事業費1,430,000円　補助額953,000円

■事業効果

・作業効率の向上

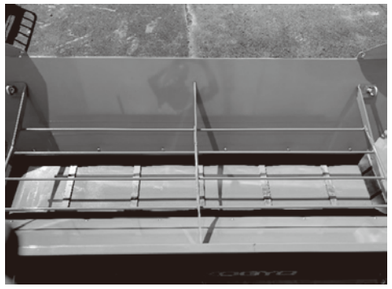
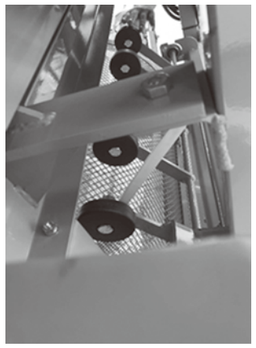
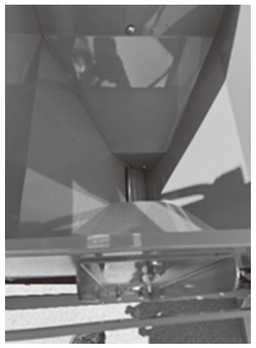
例：苗1万本の手作業ゴミ・根っこ取り（６日×４人（７時間・人））時給900円
→現状：作業時間168時間・経費151,200円
→導入後：作業時間7時間・経費150,000円
参考：消毒層1,800本/２日

・定植の円滑化

３段どりを想定した春先の定植時期を逃さず、品質・収量・単価の安定化へ繋げる。

・収量の安定化

作付１年目から２年目、反収は前年比の平均1割程度の減少傾向にある。
土の劣化を防ぎ、反収7,000kg/10aを維持する。
→下川町面積5.6ha、反収5,000kg/10aの1割　500kg/10a。
1ha 当り5,000kg/ha、28,000kg×1,000円/kg=28,000,000円の生産額維持。

・下川地域のフルーツトマト栽培に効果的か実証試験し、検証する。

・経営面積の拡大と省力化の推進へ繋げる。